

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校

学校番号

119

自己評価

学校教育目標	「ひとりだちのできる子」の育成（自立と社会参加の力を育てる） ・生活自立（基本的な生活習慣の確立・基礎体力の向上・基礎学力の定着） ・社会自立（情緒のコントロール・コミュニケーションスキルの獲得・規範意識や危険回避能力の育成） ・職業自立（自己理解・働くことの意義や役割の理解・職業に対する理解や実地的な知識・技能の習得）
評価する領域・分野	「進路教育」（進路指導・情報提供）
現状及びアンケートの結果分析等	・進路教育に係る取組みの一つとして、進路通信を発行して、学校の取組みや卒業後の就職先等についての情報を提供している。しかし、約15%が「あてはまらない」「わからない」と回答をしている。この要因としては、情報周知の方法や提供内容が保護者の求める内容となっていない等が考えられる。 ・コロナ禍で、校内及び校外での作業製品の販売会の縮小や中止があり、販売を通して生徒から学習の話を聞くなどの交流の場がなく、作業学習や就労に関する当事者の声を保護者が聞くことができなかったことも要因の一つと考えられる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・高等部生徒の現場実習先と実習の様子について保護者や教職員に情報提供を図る。 ・定期的な進路通信の発行を通して、就労に係る流れや種類、就労先で求められる力等の情報を提供する。 ・進路教育の一環として、小学部や中学部の児童生徒が、作業学習の見学をし、先輩から学ぶ機会を設ける。
重点目標を達成するための校内組織体制	・進路指導部・高等部を中心とした就労に係る情報収集と定期的な情報提供 ・学校運営協議会委員や地域等の外部の意見 ・学校評価アンケートの実施
目標の達成に必要な具体的取組	・進路指導部を中心とした進路教育に係る情報配信（通信の発行・現場実習に係る情報提供） ・PTAと連携した保護者研修会の実施（卒業生の保護者から学ぶ会の実施） ・学習計画に基づいたキャリア教育の実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・進路通信の発行（年間3回） ・個別懇談等の保護者や生徒からの意見や感想。 ・学校運営協議会委員や地域等の外部の意見。 ・学校評価アンケートの実施
取組状況・実践内容等	・高等部生徒の現場実習先の紹介や実習状況の報告、就労先に求められる力等、学校が企業や関係機関と連携を通して得た情報を通信として年間3回発行し保護者及び全職員に周知を図った。 ・高等部生徒の現場実習の様子をDVDにして、小中高各部の保護者に回覧し、実習の様子を知っていただくと共に進路に係る情報の周知を図った。 ・進路教育の一環として、小学部の児童は中学部や高等部の作業実習、中学部の生徒は高等部の作業実習を見学し、先輩から作業実習の内容や現場実

	習等の話を聞いた。児童生徒の働く生活をイメージしたり、憧れをもったりするよい機会となった。 ・PTA研修として、先輩保護者を招き、卒業生の就職や生活の様子、卒業後に向けて親として何をするとういかな等について学ぶことができた。
評価の視点	評価
①本校の職員が、進路支援について理解を深め、卒業後の生活を見据えた指導支援が行えたか。	A B C D
②卒業後の生活をイメージできるよう、保護者が求める進路情報の提供ができたか。	A B C D
③キャリア教育の一環として、教育活動を通して、児童生徒が就労観・勤労観を学ぶことができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
○通信だけではイメージが難しい高等部の現場実習先や実習の様子をDVDにし、教員の閲覧や保護者へ回覧した。高等部の保護者だけではなく、小中学部の保護者・職員にとって高等部の実習の様子や卒業までに必要な技術・力について考えるきっかけとなった。 ○PTA研修委員会が中心となって座談会を行った。卒業生の保護者を招いて「一般就労・就労支援B型・生活介護」それぞれグループに分かれて、お子さんの現状や高等部までに身に付けておくとういこと等について学ぶことができた。 ○進路指導部が中心となって、企業や関係機関と連携して得た情報を通信として学期ごとに発行し、保護者及び全職員に周知を図った。 ○小中学部の卒業後を見据えて、各部の作業実習の見学を通して、先輩から実習内容・実習の楽しさ・卒業までに身に付けておくこと等について直接話を聞くことができた。直接話を聞くことで、「働くこと」や「作業への期待感」を学ぶことができた。 ▲就労機関や就労に係る支援、福祉に係る必要な情報を保護者に提供できるよう、進路教育に係る職員の研修を実施し、資質の向上を図る必要がある。 ▲進路通信を定期的に発行しているが、保護者が求めている情報の収集や児童生徒の発達段階に応じた進路情報を整理し、提供できるように努める。	A B C D
来年度に向けての改善方策案	・卒業生や企業・事業所等の関係者から、現状や課題について話を聞き、校内でのキャリア教育に生かす。 ・児童生徒の発達段階に即したキャリア教育を年間計画に位置付け系統的な指導に繋げる。

学校関係者評価 （令和4年2月10日実施）

意見・要望・評価等
・児童生徒が実習の参観を通して先輩から学んだり、保護者が子どもの実習の様子を知る機会を設けたりし、「働く」事についてのイメージがもて、とてもよい取組みがされている。 ・生徒の実習の様子だけではなく、今後は、実習先の業務やそこで求められる作業スキル・コミュニケーションスキル等についても併せて周知できるとよい。 ・企業だけではなく、福祉サービス事業所の保護者見学や面談の実施を通して、卒業後の保護者・学校のニーズ把握や受け入れ側の準備等の対応に役立てたい。